閲覧スペースの改善（2 年間のまとめ）

みたにみえこ
三谷三恵子
（信濃町メディアセンター）

1　はじめに

2008 年に慶應義塾大学の全メディアセンターで行った利用者調査「LibQUAL＋®」の結果[1]によれば，信濃町メディアセンター（以下，当センター）では，専門資料が充実していることについての評価は高かったものの，施設環境に対する満足度は，けっして高いとはいえなかった。学習・研究のための静かで快適な空間への希望が多いことは，当センターが 2012 年度から行っているスタディライフ調査でも明らかにされた。それらを受け，ここ数年来，個人閲覧席の増設や地下閲覧室のリニューアル，グループ学習室の新設などの施設整備を行ってきた。

本稿では，具体例として 2011・2012 年度に行った「くつろぎ閲覧エリア」およびセミナー室の新設，書庫閲覧席の椅子の交換について紹介する。

2　くつろぎ閲覧エリア

(1) 経緯

「くつろぎ閲覧エリア」は，約 980 誌の新着雑誌をぎっしり並べた雑誌書架と 6 人がけの大机からなる新着雑誌エリアを，全く新しいデザインへ模様替えして 2012 年 2 月に改装オープンしたものである。ここは，図書館の入口を入ってすぐの，「図書館の顔」である。建物の外観は 1937 年に竣工した歴史的な建造物であるが，入口近くの最も目立つこのスペースを明るく広く見えるように改装することで，利用者に，館内の「場」の変化を認識してもらい，快適な環境としてアピールすることを狙った。入口付近という立地からも，ふらっと立ち寄った利用者同士が気軽に交流できる場所になることも期待した。

(2) 改装内容

入口からフロアーが見渡せるように，コーナーを仕切るパネルの背を低くし，窓を遮る書架にあった AV 資料を，1 階閲覧室奥の映像ブース付近の書架に移動して，そのあとに雑誌用の低書架を設置した。また，壁面を再塗装して，開放感をもたせた。

配架する雑誌数を約 980 誌から 77 誌（うち和雑誌 56 誌）に大幅に絞り，雑誌の表紙がみえる書架とした。和雑誌の割合が高いのは，最新号は冊子で見なければならなかったり，電子化が遅れているものが多いためである。一方洋雑誌は，近年電子ジャーナルのみの購読に切り替えているため，Science, Nature, JAMA, The Lancet, New England Journal of Medicine などのコアジャーナルを配架した。

また什器は，利用者がくつろいで閲覧できるように，アームテーブルが付いたものや，座り心地の良いものを設置した。

(3) 利用者の反応と今後

改修後，アンケートボックスを設置し，配架雑誌と什器について意見を収集した。「表紙が見えるため雑誌が探しやすい」，「座りやすくて疲れない椅子だ」など，設備の面では期待通りの反応を得ることができた。

反面，研修医や学生向けの雑誌が少ないという指摘が強く寄せられた。これまでのように新着雑誌が一か所で閲覧できる便利さがなくなったことから，ここに置く雑誌のタイトル選定は非常に重要なものという認識を強めた。以上の意見を基に，まずは雑誌数を増やすべく 2013 年 3 月に書架を増設した。また，2013 年は円安が急激に進んだため，Science や Nature のような洋雑誌の冊子購読を中止せざるを得ない状況となったことも重なり，雑誌 23 タイトル分を新規に配架できる余地ができた。2013 年 7 月に図書委員会を開催し，こういった状況を説明するとともに，アンケート実施を依頼して各教室からの希望タイトルを募り，新規配架タイトルを調整中である。

くつろぎ閲覧エリア

3　セミナー室新設とグループ学習室移設

(1) 経緯

2011年10月に信濃町ITC（学内のIT管理部門）の事務室が，当センター地下1階から北別館へ移転したことを受け，跡地にセミナー室とグループ学習室を設置し，2012年4月から利用に供した。

(2) セミナー室

セミナー室には，18席の椅子と机，パソコンやプロジェクター，スクリーンを配置し，当センターが主催する電子リソース活用講座の部屋として容易に利用できるようにした（それまでは館内にスペースがないため，館外のパソコン教室を利用していた）。

当センター内に講座・セミナーの場所を用意できたことは開催する私たちだけでなく，利用者の利便性も増したと言える。電子リソース活用講座の年間開催回数と参加人数は，地下セミナー室オープン前は開催12回，参加者120人だったものが，オープン後は26回，222人へと増えた。

講座がない時間帯は，パソコンルームとして自由に利用できるようにしたが，設備の管理上，土曜日・日曜日は閉室とした。1日2回午前と午後の館内巡回時の記録によると，オープン開始後から2013年7月末現在，利用者がいなかった日はない。

(3) グループ学習室

移転により，旧グループ学習室より若干面積が増えたが，利用規則には変わりなく，什器類もそのまま利用した。

実際に利用してみると，セミナー室の講座開催時のマイク音声がグループ学習室に聞こえる，反対にグループ学習室の話し声がセミナー室に聞こえるという問題点があることがわかり，2013年3月には防音工事を行った。セミナー室とグループ学習室間の壁にあったドア2つを撤去し，一面を壁にするとともに，吸音材を二つの部屋と通路部分の壁ほぼ全面に張った。

セミナー室・グループ学習室

4　書庫内の椅子交換

2012年3月には，書庫1階から4階の閲覧席用の椅子全て（64脚）を交換した。新しい椅子の選定に当たっては，長時間椅子に座っても疲れないことを要件にした。また，椅子の背をオレンジ色にし，暗いイメージの書庫を明るくし，椅子を目立たせる効果を狙ったが，階ごとに異なっているカーペットの色にもよく調和した。ここ数年減少傾向だった書庫内の閲覧席の利用者は明らかに増えたが，椅子交換の効果の表れと考えている。

書庫内椅子

5　おわりに

今や電子リソースへのアクセスがサービスの主体に移り，来館しなくては研究できない時代ではない。しかし，一連の学習・研究環境の整備を通じて，来館者が確実に増えていくさまを実感した。また，社会全体が個人の好みを重視したサービスを求めているように，図書館にもさまざまな要求に応える柔軟な姿勢が求められる。場の再活用が叫ばれる今日，学習・研究環境にこそ柔軟性のある対応を目指すべきと考える。さらに，今後はインフラとなる施設整備とともに，きめ細かな人的なサービスにも目を向けていきたい。

（追記）

なお，くつろぎ閲覧エリアの改装工事は，故・石原廉氏より，ご自身の遺志『外部にも開かれた図書館であり続けてください』というメッセージと共に，遺言による寄付をいただいて実施した。故人の冥福をお祈りするとともに，改めて感謝申し上げる。

参考

1）慶應義塾大学メディアセンター利用者調査ワーキンググループ．“図書館サービス評価 LibQUAL＋®（ライブカル）の実施結果について”．慶應義塾大学メディアセンター．http://project.lib.keio.ac.jp/libqual/report.html, 2009-8-21,（参照 2013-07-25）．